

海岸防潮堤等整備に関する市民説明会及び意見交換会
(川原漁港～岩井崎～沖の田川)

■日時 平成24年7月12日(木)18:30～

■参加者 約80名

■主な意見

※ 気仙沼土木事務所が管理する海岸及び河川へは次のような意見が出されました。

- ・どの地震で津波高さのシミュレーションをしているのか。
→津波高さは明治三陸地震や想定される宮城連動型地震の津波を基に算出しています。
- ・沖ノ田川のL1高さの堤防を越えた津波の水の処理方法について教えて欲しい。
→堤防を越えた水の処理は地域づくりに併せ検討します。
- ・今回の津波は沖ノ田川を約3キロ遡上してきた。水門を整備した方が良いのではないのか。
→水門整備をしてきた所は全て全壊し、水門閉鎖の不確実性もあるので、河川河口部は海岸防潮堤と同じ高さの堤防で復旧します。
- ・沖ノ田川ではバック堤を作るのに、杉の下海岸で水門を作るのはどうしてなのか。
→杉の下の水門は流量の少ない普通河川ですので、水門になります。

※ 他の海岸管理者に対しては次のような意見が出されました。

- ・岩井崎の防潮堤について、砂浜を考慮して堤防位置を陸側に後退することは可能か。
- ・7～10mのL1対応の防潮堤高さで、津波から本当に守れると思うか。
- ・災害危険区域に指定した人も住まない所で守るものはあるのか。
- ・震災で気仙沼を離れた人が戻ってくるような、自然を取り戻して欲しい。
- ・砂浜等は自然の回復力を10～20年位で観察してはどうか。
- ・どこまで事業調整が出来るのか。住民との話し合いの余地があるのか。
- ・海が見える状況にして欲しい。
- ・川原漁港を出入りする陸間や水門はどうなるのか。
- ・避難道路をいち早く整備して欲しい。
- ・道路を守るためにも防潮堤は必要。
- ・寿命が50年のコンクリートの堤防を作っても、100年後の津波に対して耐えられるのか。

